

IV 計画の推進体制

計画の推進にあたっては、国・市町・関係団体等との連携・協力により再犯防止の施策に取り組みます。また、県と国の関係機関等で構成する「長崎県再犯防止推進ネットワーク会議（仮称）」を新たに設置し、情報交換や課題の共有、長崎県再犯防止推進計画の進捗管理などを行います。

コラム 16

地域に学びと支援の輪を 〈長崎多職種連携・たまごの会〉

（長崎多職種連携・たまごの会）

長崎多職種連携・たまごの会は、長崎純心大学と長崎大学で主に福祉・医療・心理の職に進む学生＝たまごにより、平成 27（2015）年に設立されました。学ぶ専門分野が異なると、同じ言葉や出来事でも違う視点から考えているという刺激的な発見をしたのが設立のきっかけです。私たちは、生きた知識を学び、互いに教え合うことで、共に育つ場を作り、将来、長崎で地域包括支援体制を支えていく存在になることを目標としています。そこで勉強会や定期的なミーティングなどの活動を通して、学生のうちから顔の見える関係を作り、互いに理解・尊重できる関係を築いています。

活動の 1 つとして平成 29（2017）年より長崎県地域生活定着支援センター（以下、定着支援センター）との勉強会を続けており、刑務所参観等も行いました。特に、刑務所参観では、司法に抱いていたイメージがとても変わりました。受刑者の中に孤立や生きづらさを抱え、支援が届いていない人が多くいること、定着支援センターでは全国に先駆けてそのような人への支援の仕組みを作り、さらに全国どこでも応用可能な官民の専門職が一体となった支援体制を整えてきたことを学びました。現状を知ることの大切さや“罪を償う、許すとは何か、最適な支援は何か”などを考えることができ、報道や世間のイメージを鵜呑みにしてはならないことにも気づかされました。また、支援にあたって、何でも話せて、また戻ってきたいと思えるような良い感情を残す心の通った信頼関係を築くことも大切であることがよく分かりました。衣食住や仕事の支援だけでなく、そのような関係を作る支援も行うことが再犯防止につながります。

今ではこの学びの輪は場所と職種が広がり、香川大学法学部の学生ともオンライン上で活動を共にしています。司法の道を志す学生からの新しい視点はとても新鮮です。

私たちは、地域の現状と支援の仕組み、多職種が連携する支援体制、支援の心構えを学び、異なる専門職を目指す学生同士で違う視点から教え合うことで、多くの刺激を受けてきました。私たちが支援の現場に出た時、多職種が今よりも連携したさらに良い支援を地域の人たちに提供できるようになると考えています。

私たちは、これらの活動を続け、発信し、この学びの輪を広げていきます。地域に支援の輪が広がり、より充実した地域住民中心の支援体制を築くことにつながると確信しています。